

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所マンスリートピック(2015年1月)

【2015年ラグビー・ワールドカップがイングランドで開催へ ～ 大会開催に伴うインフラ整備済み、大きな経済効果期待される】

要旨

- ・2015年9月中旬から6週間にわたり、ラグビーのワールドカップがイングランドで開催される。
- ・会場には、ウェールズのカーディフ市内のスタジアムを含む13カ所が決定している。
- ・本大会では、海外から訪れる観戦客が、大会史上最大となる42万2000～46万6000人に達すると予測されている。
- ・大会の会場が位置する都市では、交通施設などのインフラ整備が進んでいる。
- ・本大会の開催は、多くの産業分野で、様々な層の人々に、幅広い雇用の機会を提供し、経済の活性化をもたらすと期待される。
- ・大会運営を支えるボランティアには6,000人が動員される。募集、選考作業は既に終了している。

2015年9月18日～10月31日、ラグビーのワールドカップがイングランドで開催される。日本を含む計20の国・地域の代表チームが参加し、決勝戦は、「ラグビーの聖地」と言われるロンドン南西部のトゥイッケナム・スタジアム(Twickenham Stadium)で行われる。

ラグビーのワールドカップは4年に1度開催され、今回が8回目である。イングランドが2015年大会の開催地に選ばれたことは、2009年7月、国際ラグビー評議会(The International Rugby Board、IRB)(当時)¹によって発表された。この際同時に、2019年のラグビー・ワールドカップの開催地に日本が選ばれたことも明らかにされた。国際ラグビー評議会は、これら2大会について同時に開催立候補都市を募り、イングランドにおけるラグビーの競技運営団体である「イングランド・ラグビー協会(Rugby Football Union、RFU)」は、2015年大会の開催地に立候補していた。

¹ 2014年11月に「ワールド・ラグビー(World Rugby)」に改称。

2015年大会のスケジュール及び会場は、2013年5月に、大会組織委員会（England Rugby 2015、ER2015）によって発表された。会場は計13カ所で、イングランドの大会であるが、観客収容数が多く、交通の便が良いなどの理由から、ウェールズの首都カーディフ市に位置するミレニアム・スタジアムも含まれている。

13会場のうち、キングスホーム・スタジアム及びサンディ・パークはラグビー・ユニオン²のチームの本拠地であり、トウィッケナム・スタジアム及びミレニアム・スタジアムはそれぞれラグビーのイングランド代表及びウェールズ代表の本拠地である。またオリンピック・スタジアムは、2012年ロンドン・オリンピックの主会場として使われた場所であり、2016年の再オープン後は多目的施設として使われることになっている（2015年ラグビー・ワールドカップでは、同会場を正式な再オープンの前に使用する）。その他の8会場は、サッカー競技場である。

下記は、2015年ラグビー・ワールドカップの会場とそれらが位置する都市の一覧である。

表1: 2015年ラグビー・ワールドカップの開催都市及び会場

開催都市	開催都市の 地方自治体	2015年ラグビー・ワールドカップで 使われる会場名	会場所所有者	会場の 観客収容数	当該会場で行われる 2015年ラグビー・ワールドカップの 試合数	2015年ラグビー・ワールドカップを開催 することによる経済効果 ³
ロンドン	ロンドン・ブレント (Brent) 区	ウェンブリースタジアム (Wembley Stadium)	イングランド・サッカー協会 (The Football Association、FA)	90,000人	2試合	12億300万ポンド(ロンドン全体への経済効果)

² ラグビーと呼ばれる競技は、「ラグビー・ユニオン」と「ラグビー・リーグ」に分かれ、チームの人数や試合のルールが若干異なる。英国及び日本で一般に「ラグビー」と言う時は「ラグビー・ユニオン」を指す。本報告書で取り上げているワールドカップはラグビー・ユニオンの大会である。

³ 後述する会計事務所EYによる報告書「2015年ラグビー・ワールドカップの経済効果(The economic impact of Rugby World Cup 2015)」より。2015年ラグビー・ワールドカップの開催地となることによる経済効果の見込み額を都市別に示す。ロンドンの3会場については、それぞれの会場が位置する地域別ではなく、同大会の開催地となることによるロンドン全体への経済効果の見込み額が掲げられている。

ロンドン	ロンドン・リッチモンド・アポン・テムズ (Richmond upon Thames) 区	トウィッケナム・スタジアム (Twickenham Stadium)	イングランド・ラグビー協会 (RFU)	81,605 人	10 試合	12 億 300 万ポンド (ロンドン全体への経済効果)
カーディフ (Cardiff)	カーディフ市	ミレニアム・スタジアム (Millennium Stadium)	ウェールズ・ラグビー協会 (Welsh Rugby Union、WRU)	74,150 人	8 試合	3 億 1600 万ポンド
マンチェスター (Manchester)	マンチェスター市	マンチェスター・シティ・スタジアム (Manchester City Stadium)	マンチェスター市	47,800 人	1 試合	4500 万ポンド
ロンドン	ロンドン・ニューアム (Newham) 区	オリンピック・スタジアム (Olympic Stadium)	グレーター・ロンドン・オーソリティー (Greater London Authority、GLA)	54,000 人	5 試合	12 億 300 万ポンド (ロンドン全体への経済効果)
ニューカッスル・アポン・タイン (Newcastle upon Tyne)	ニューカッスル・アポン・タイン市	セント・ジェームズ・パーク (St James' Park)	ニューカッスル・ユナイテッド・フットボール・クラブ	52,400 人	3 試合	9300 万ポンド
バーミンガム (Birmingham)	バーミンガム市	ビラ・パーク (Villa Park)	アストン・ビラ・フットボール・クラブ	42,800 人	2 試合	5600 万ポンド
リーズ (Leeds)	リーズ市	エランド・ロード (Elland Road)	リーズ・ユナイテッド・フットボール・クラブ	37,900 人	2 試合	5300 万ポンド
レスター (Leicester)	レスター市	レスター・シティ・スタジアム (Leicester City Stadium)	レスター・シティ・フットボール・クラブ	32,300 人	3 試合	5900 万ポンド

ブライトン・アンド・ホーブ (Brighton and Hove)	ブライトン・アンド・ホーブ市	ブライトン・コミュニティ・スタジアム (Brighton Community Stadium)	ブライトン・アンド・ホーブ・アルビオン・フットボール・クラブ	30,750 人	2 試合	4600 万ポンド
ミルトン・キーネズ (Milton Keynes)	ミルトン・キーネズ市	スタジアム mk (Stadium mk)	MK ドンズ・フットボール・クラブ	30,000 人	3 試合	5600 万ポンド
グロスター (Gloucester)	グロスター市	キングスホーム・スタジアム (Kingsholm Stadium)	グロスター・ラグビー・クラブ	16,500 人	4 試合	4800 万ポンド
エクセター (Exeter)	エクセター市	サンディ・パーク (Sandy Park)	エクセター・ラグビー・クラブ	12,300 人	3 試合	3900 万ポンド

海外からの観戦客は大会史上最大を見込む ～ 様々な分野で雇用創出、経済活性化へ

2015 年ラグビー・ワールドカップに関して、大手会計事務所 EY (Ernst & Young、アーノスト・アンド・ヤング) は 2014 年 11 月、「2015 年ラグビー・ワールドカップの経済効果」と題する報告書を発表した。以下はその内容の一部である。

観客動員数

・ラグビーのワールドカップは、単一のスポーツ大会としては、サッカーのワールドカップに次いで多くの有料入場者（有料のチケットを購入して入場する観戦客）を集めることができるイベントである。過去 3 回のラグビーのワールドカップ（2011 年ニュージーランド大会、2007 年フランス大会、2003 年オーストラリア大会）は、147 万～219 万人もの観客を集める盛況であった。

・2015 年ラグビー・ワールドカップでは、海外から訪れる観戦客が、大会史上最大の 42 万 2000～46 万 6000 人に達すると予測される。

大会の経済効果

・2015年ラグビー・ワールドカップの海外からの観戦客による英国滞在中の支出額は、最高で計8億6900万ポンドに上ると予測される。平均支出額は、個々人のバックグラウンドや状況によって、59ポンドから3,546ポンドまで幅が出ると予測される。

・2015年ラグビー・ワールドカップの開催に伴う地域のインフラ設備への投資規模は8500万ポンドに達すると予測され、開催各都市に長期的な恩恵をもたらすと見込まれる。

・これら（海外からの観戦客による支出及び地域のインフラ設備への投資）を合わせた2015年ラグビー・ワールドカップの開催に起因する英経済における経済効果（output）は、最高で22億ポンドに上ると予測される。英国の国内総生産（Gross Domestic Product、GDP）は、同大会の開催によって9億8200万ポンド押し上げられると推計される（フランスで行われた2007年大会では、大会の開催による直接効果で同国のGDPが3億8000万ポンド相当引き上げられたと推計されている）。

・2015年ラグビー・ワールドカップの開催都市が会場へのスムーズな移動を確保するために取り組んでいる交通インフラの整備には、鉄道駅の改良、トラム（路面電車）の路線拡張、道路の整備などがある。こうしたインフラ設備への投資は、建設業界を含む産業分野でさらなる経済活動を促進する。

・2015年ラグビー・ワールドカップの会場での飲食物の販売による収益は、最高で計3200万ポンドに上ると予測される。このうち海外からの観戦客からの収益は1300万ポンドに達すると推計される。

・英国では、サッカーの試合ではアルコール類の販売が禁止されているが、ラグビーの試合では許可されている。このことは、英国で行われるラグビーの試合での飲食物の売り上げ増に貢献している。

・ワールドカップを支援し、多くの人々に大会を楽しんでもらう機会を提供するため、イングランド各地及びカーディフ市内の最大15ヶ所にファンゾーン（Fanzone）⁴が設置される。ファンゾーンは、大会開催都市内の良く知られた場所に設置され、様々なエン

⁴ ファンゾーンとは、大規模なスポーツ大会の期間中、一般の人々が共に大会を楽しむことができるよう地域の特定の場所に設けられるスペースで、大スクリーンで試合を中継したり、関連イベントが開催されるなどする。

ターテイメントやラグビー関連のアクティビティが提供される。入場料は無料で、大会へのサポートを奨励する。ファンゾーンでの飲食物の販売による収益は総額 1300 万ポンドに上ると推計される。このうち、海外からの観戦客からの収益は、最高で 500 万ポンドに達すると見込まれる。

雇用の創出

- ・ 2015 年ラグビー・ワールドカップの開催は、多くの産業分野で、様々な層の人々に、幅広い雇用の機会を提供する。大会開催には、300 人以上のフルタイムスタッフの雇用が必要とされる。

- ・ 試合会場となるスタジアム及び交通施設などのインフラ施設の整備にも新たな人員の雇用が必要となる。これらの仕事は、建設業界での、フルタイムまたはパートタイム、業務請負 (contractor worker) などのポジションとなる。

- ・ 観光業界やホスピタリティー産業でも、2015 年ラグビー・ワールドカップの開催で需要が高まり、従業員の補充や、既存の従業員の勤務時間延長が必要になると思われる。

- ・ このような大会開催に直接関連する分野のみならず、ワールドカップは、その他の分野でも需要を高め、雇用を促進する。

- ・ ワールドカップ開催に起因する雇用の創出と労働時間の増加は新たな富の創出をもたらし、それはさらなる支出と労働への需要を支えることになる。

* * *

EY の報告書ではまた、2015 年ラグビー・ワールドカップの開催によってもたらされるより広範な恩恵として、下記の点が挙げられている。

* 国民の間に多幸福感 (‘Feel-good’ factor) が醸し出される

2015 年ラグビー・ワールドカップでは、2012 年のロンドン・オリンピックがもたらしたカーニバルのような雰囲気再現され、開催都市の住民及び英国国民全体が、オリンピック時のように、多幸福感を共有できることが期待されている。

ニュージーランドでの 2011 年ラグビー・ワールドカップの開催後、オークランド市民の 88%が、大会によって地域コミュニティの連帯感が深まったと考えていることが報告された⁵。2015 年大会では、ファンゾーンの設置、地域住民のボランティアの活用、地域での関連イベントの開催などによって、この点において英国がニュージーランド大会と同様の効果を上げることが期待されている。

* 産業界にレガシー（遺産）をもたらす

2011 年大会では、ニュージーランドの企業の 52%が、海外とのネットワークを拡大することができた。2015 年大会も同様に、英国の企業を海外に売り込み、輸出を拡大する機会になることが期待されている。

2015 年ラグビー・ワールドカップの開催に向け、英国のインフラ施設が整備され、公共交通システムが改善されることは、将来、産業界がコストを低減できることにつながり、英国経済が海外での競争力を維持することを助ける。

* ラグビー人口を拡大する

2015 年ラグビー・ワールドカップは、ラグビーへの関心を高め、より多くの人々が、競技者またはボランティア、あるいはサポーターとしてラグビーに関わることを奨励するのに貢献する。イングランド・ラグビー協会は、ラグビー人口を増やすこと、以前プレーヤーやサポーターとしてラグビーに関わっていた人々にまた競技に戻ってきてもらうこと、現在ラグビーに関わっている人々がそれを最大限に楽しむことができるようにすることに尽力している。

* 大会開催都市が観光地として注目される

2011 年大会では、海外から訪れた観戦客の 93%が、将来ニュージーランドを再訪したいと述べていた。2015 年大会では、イングランド各地及びカーディフのスタジアムが会場として使われるため、ブライトンの海岸やニューカッスルの活気ある街の中心部などの様々な観光スポットを海外からの訪問客に紹介することができることになり、英国の観光業界の長期的な活性化につながることを期待される。

⁵ 2011 年大会では、主要な試合の多くがニュージーランドのオークランド市のスタジアムで行われた。

41のベースキャンプ地が決定 ～ 日本はロンドン近郊の学校施設など

2015年ラグビー・ワールドカップでは、イングランド及びウェールズの41の施設が参加チームのベースキャンプ地として使われることが決定している。

ベースキャンプ地の公募は2013年4月に開始され、100件弱の応募が寄せられた。厳正な審査の結果選ばれた41の施設には、屋外及び屋内のトレーニング施設、スイミングプール、スポーツジム、ホテル、ラグビーチームのトレーニング施設、学校の施設などが含まれ、6週間にわたる大会の開催前と期間中、大会参加チームによって使用される。ベースキャンプ地には、今大会の会場が位置していない地域も多く含まれており、それらの地域にもワールドカップによる経済効果が波及することが期待される。また、準々決勝以降、勝ち残ったチームが使うベースキャンプ地として、8つの施設が選ばれている。

下記は、2015年ラグビー・ワールドカップの各チームのベースキャンプ地の一覧である。

表2： 2015年ラグビー・ワールドカップのベースキャンプ地

チーム名	ベースキャンプ地として使う施設（括弧内は所在地）
アルゼンチン代表	セント・ジョージズ・パーク・ナショナル・フットボール・センター（スタッフォードシャー県） ヘイリーベリー・スクール（ハートフォードシャー県） チェルトナム・ラグビー・クラブ（グロスターシャー県）
オーストラリア代表	ダリッジ・カレッジ（ロンドン） バース大学（バース市）
カナダ代表	レスター・グラマー・スクール（レスターシャー県） カーディフ・メトロポリタン大学（カーディフ市） スウォンジー大学（スウォンジー市） ウェスト・パーク・リーズ・ラグビー・ユニオン・クラブ（リーズ市）
イングランド代表	ペニーヒル・パーク・ホテル（サリー県） AJベル・スタジアムなどサルフォード市内の施設（サルフォード市）
フィジー代表	スウォンジー大学（スウォンジー市） ロンドン・アイリッシュ・ラグビー・クラブ（サリー県） MKドッズ・フットボール・クラブを含むミルトン・キーンズ市内の施設（ミルトン・キーンズ市）

フランス代表	ザ・ヴェール・リゾート（ヴェール・オブ・グラモーガン市） トリニティ・スクール・クロイドン（ロンドン）
ジョージア代表	ウッドベリー・パーク及びビクトン・カレッジ（デボン県） ブリストル市内の施設及びサウス・グロスターシャー・アンド・ストラウド・カレッジ（サウス・グロスターシャー市） ケルティック・マナー・リゾート及びニューポート市内の施設（ニューポート市）
アイルランド代表	セント・ジョージズ・パーク・ナショナル・フットボール・センター（スタッフォードシャー県） サリー・スポーツ・パーク（サリー県） スポーツ・ウェールズ・ナショナル・センター（カーディフ市） ケルティック・マナー・リゾート及びニューポート市内の施設（ニューポート市）
イタリア代表	サリー・スポーツ・パーク（サリー県） コバム・ラグビー・クラブ（サリー県）
日本代表	ウォーリック・スクール（サリー県） ブライトン・カレッジ（イースト・サセックス県）
ナミビア代表	ラフバラ大学（レスターシャー県） コバム・ラグビー・クラブ（サリー県） セント・マーク・アンド・セント・ジョン大学などプリマス市内の施設（プリマス市）
ニュージーランド代表	スポーツ・ウェールズ・ナショナル・センター（カーディフ市） ザ・レンズベリー及びセント・メリーズ大学（ロンドン） ダーリントン・モウデン・パーク（ダーラム市）
ルーマニア代表	ダリッジ・カレッジ（ロンドン） ウッドベリー・パーク及びビクトン・カレッジ（デボン県） サットン・コールドフィールド・ラグビー・クラブ（バーミンガム市）
サモア代表	MK ドンズ・フットボール・クラブを含むミルトン・キーンズ市内の施設（ミルトン・キーンズ市） ブライトン大学（ブライトン・アンド・ホープ市） ゲーツヘッド・インターナショナル・スタジアム及びゲーツヘッド・カレッジを含むゲーツヘッド市内の施設（ゲーツヘッド市） サットン・コールドフィールド・ラグビー・クラブ（バーミンガム市）

スコットランド代表	ハートプユリー・カレッジ (グロスターシャー県) ニューカッスル・ロイヤル・グラマー・スクール (ニューカッスル・アポン・タイン市) リーズ・メトロポリタン大学及びリーズ大学 (リーズ市)
南アフリカ代表	バーミンガム大学 (バーミンガム市) ザ・レンズベリー及びセント・メリーズ大学 (ロンドン) イーストボーン・カレッジ (イースト・サセックス県) 及びブライトン大学 (ブライトン・アンド・ホープ市) ゲーツヘッド・インターナショナル・スタジアム及びゲーツヘッド・カレッジを含むゲーツヘッド市内の施設 (ゲーツヘッド市)
トンガ代表	エクセター大学 (エクセター県) ラフバラ大学 (レスターシャー県) ノーサンブリア大学 (ニューカッスル・アポン・タイン市) チェルトナム・ラグビー・クラブ (グロスターシャー県)
米国代表	ハートプユリー・カレッジ (グロスターシャー県) ヘイリーベリー・スクール (ハートフォードシャー県) 王立海軍ラグビー・ユニオン (ポーツマス市) リーズ・トリニティ大学 (リーズ市)
ウェールズ代表	ザ・ヴェール・リゾート (ヴェール・オブ・グラモーガン市) ロンドン・アイリッシュ・ラグビー・クラブ (サリー県)
ウルグアイ代表	モールトン・カレッジ (ノーサンプトンシャー県) ラフバラ大学 (レスターシャー県) ブラウトン・パーク・ラグビー・クラブなどマンチェスター市内の施設 (マンチェスター市) ケルティック・マナー・リゾート及びニューポート市内の施設 (ニューポート市)

6,000人のボランティアが大会運営を支援 ～ 応募は2万人を超える

2015年ラグビー・ワールドカップでは、約6,000人のボランティアが大会の開催を支援する。これらボランティアは、「ザ・パック（The Pack＝「集団」「一群」などの意）」と呼ばれ、会場案内や観客のチケットの確認、メディアセンターでの報道関係者の補助、障害者の観客の補助などを含む様々な役割を果たすことになる。ボランティアの募集は2014年2月に始まり、2万人を超える応募が寄せられ、このうちおよそ1万人の応募者が、「トライ・アウト（Try Outs）」と名付けられた選考作業に招かれた。「トライ・アウト」は、大会の全ての開催都市で行われた。ボランティアとして採用された応募者は、2015年1月以降、連絡を受けることになっている。